
病弱気味な私

ハーミット

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

病弱気味な私

【Nコード】

N3786Y

【作者名】

ハーミット

【あらすじ】

病弱気味な少女 雨宮^{あまみや}好奇^{カシス}心の病弱気味生活小説

序章

朝の肌寒い、二階廊下の向こう。ずっと遠くから声が聞こえる。

「…シス、カシス？」

私は、その声に反応するのに、数秒かかった。冷たい布団の中で、私はいつもより粗めの呼吸と、重い頭痛にうなされていた。

「……お母さん？」

重い頭を抱え、声を振り絞る。気がつけば、私のは寝汗まみれでびしょびしょになり、喋る度に頭に響くこの痛み。もう慣れた光景。

「カシス、入るよ」

お母さんは、私の了承も聞く耳持たず、ガチャリとドアを開ける。
「カシス、いつまで寝て…カシス？」

お母さんは、私の顔を見るなり、言葉を止めた。

「…また風邪？体温は？もう計った」

お母さん、今起きたばかりだから、あとあまり揺らさないで、本当頭に来る。

紅潮して、熱くなったおでこを触り、検温器に手を伸ばす。

寝汗で濡れた脇に差し込むこと、数秒。

ピ。ピ。ピ。

検温終了の音が部屋に響く。

「うゝん」

鼻息で唸りつつ、目の前の現実を目をやる。

…38・5度

「……ねえカシス、体調がおかしいのって、いつから？」

恐る恐る、お母さんが私に聞く。いくらなんでも、初っ端からこの体温はおかしい。それくらい、一目瞭然で分かる。

「……昨日の朝かな？」

パシッ

「っ、くうう」

頭に突如痛みが。と思ったら、お母さんのチョップが頭上を直撃した。風邪で頭痛のひどい時に…。悪魔。

「誰が悪魔だ」

パシッ

…二度目。訂正、鬼。

「冗談はさておき…カシス、なんで言わないの？昨日の内に言わなきゃダメじゃない」

お母さんは、いつもに増して怒って、そして焦っていた。私としてはいつものことと思っていた。風邪とは別に、汗がじんわりと吹きだす。

「…ゴメンなさい」

実際、お母さんを困らせたのは事実だし、私としても、この空気から立ち直りたかった。そして、見上げた時はもう、お母さんの起こった顔は、落ち着きを取り戻していた。

「ほら、もう怒ってないから、今日はもう学校休んじやいな、先生に、私から連絡しとっから」

そういうと、お母さんは無理やり私を寝かしつけ、布団を被せた。「あ、それと、はい保険証。今日中に医者に見てもらいなさい、いつもの病院、今日開いてるだろうし。後、私今日遅くなりそうだから、ご飯下におかゆ炊いとくね。後戸締りは…」

こういうことに、お母さんはいちいち細かい。頭が重いのと、長話苦手の誘惑に負けた。そのせいで、それ以降の話は聞いてなかった。

「つーわけで。朝ごはんどうする？うどんでも作ろうか？」

うーん、正直今はあまり食べたくないかな。むしろ寝ていたい。ということをおおらかに告げた。

「そう、じゃ、用あったら、携帯よろろ」

「…うん、ありがと」

「…お大事に」

お母さんは、静かにドアを閉めた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3786y/>

病弱気味な私

2011年11月9日20時06分発行